

# 新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

## 評価者のコメント

プロジェクト	電子出版の流通促進のための情報共有クラウドの構築と書店店頭での同システムの活用施策プロジェクト
代表機関	財団法人出版文化産業振興財団
共同提案組織	日本書店商業組合連合会、社団法人日本出版取次協会、社団法人日本雑誌協会、社団法人日本書籍出版協会、株式会社博報堂、プライマル株式会社

### (1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 別の委員からも指摘があったが、紙の本を扱うリアル書店を十分に活用したプロジェクトにはなっておらず、その点については厳しく評価せざるを得ない。評価者は書店のインターフェース性を評価し、多様な本が目の前に面として提示されていることに大きな意味を見いだしている(ネットでは点としての提示になりがち)が、そういった書店の価値、あるいは書店員の存在が顧みられておらず、単なるサービスポイントとしか考えられていなかったことはきわめて残念である。また、ここでの「情報共有クラウド」は何のために必要なのか、単にサーバがあればいいだけではないのかと考えざるを得ない。
- もう少し書店との連携を設計して欲しかったと思う。(例えばi Padを持って店内を歩いて回れるようにするとか、デジタル書籍のある本棚へ誘導とか)将来的な展望は見えずらい。
- 出版物関連情報のサービスシステム「ヨムナビインフォ」を構築し、登録会員に対して実証実験を行った点は、評価できる。
- 実証の規模が小さすぎて産業利用性を評価しうるレベルに達していない。
- 紙ベースの書籍では、一部ですでに行われている、書評や売れ行き情報を蓄積した電子出版物のデータベース「ヨムナビインフォ」としてを構築し、プリペイドカードによる販売実証を行っているのが評価される。

### (2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 電子情報環境下であっても紙の本を扱うリアル書店の可能性はまだまだあると思うので、ご検討いただきたい。
- 出版書店業界で共同で情報サービスを考えていくというのは可能性があると思う。(対Amazon)
- 今回の実験で得られたデータは、「ヨムナビ. インフォ」の提供しているサービスに大きく依存しており、ユーザにとって、より魅力的なサービスは、何かを探るべきである。これまでのサービスは、あまりにも限定的に見える。

● 売行、書評情報は、一定のサイトを運営することによって集められることになり、これは、オープンな書き込み等を許容するものとなるだろう。書店の売るためのそれは、書店固有のビジネスの一部として行えばよい。

● 店頭でのみの活用に止まらず、一般のネット上で情報公開し、購入は店頭ですするというオプションがこの活動をより効果的にするのではなかろうか。また、電子書籍情報としては、「3. 次世代電子出版コンテンツID推進プロジェクト」との共同討議も必要。また、今後の運営主体を確立しておく必要がある。 「6. 書店店頭とネットワークでの電子出版の販売を実現するハイブリッド型電子出版流通の基盤技術の標準化及び実証」との連携が望まれる。